

学修成果と臨床研修到達目標の関連

兵庫医科大学 臨床研修到達度					厚生労働省の臨床研修到達目標																						
理念 (建学の精神)	領域(4)	要素(12)	細目(34)	レベルS		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	
社会の福祉 への奉仕	関心・意欲・ 態度	安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、 優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として 社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有 している	社会福祉	地域保健、福祉および介護システムを理解し、地域連携を図る	1							●	●										●	●	●		
			チーム医療	チーム医療において患者側要素に配慮した最適なアプローチ にて、常に良好な医療を提供できる	2		●	●	●	●	●	●	●	●													
			安心な社会と医療	医療の24時間対応と医師の働き方(ワークライフバランス)の実 現に取り組む	3						●	●							●						●		
	思考・判断	医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医 療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・ 福祉・介護および行政等と連携協力できる	地域医療(兵庫県の医 療を含む)	本邦の医療政策を理解し、患者の社会的背景に応じた適切な医療を提供で きる。兵庫県の保健・医療・福祉・介護および行政における問題解決方法を 検討できる	4							●	●	●									●	●			
			プライマリケア	プライマリケアを実践する	5	●	●	●	●			●	●														
	技能・表現	人文社会科学を含む幅の広い教養と国際性を身 につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語 学力を有し、国際保健に貢献できる	幅広い教養	医療人類学、進化医学など幅広い教養を身につけ、ライフス タイル変容における行動科学的アプローチを行うことができる	6	●												●	●	●			●	●	●	●	
			語学力	世界的に注目されている医学的情報を入手し、海外の研究者・医療関係者と 実践的なコミュニケーションをとることができる。外国人患者の英語での診察 ができる	7	●	●			●	●		●	●									●				
			国際保健	医療のない貧困地区における救済活動や、世界の健康の向上 及び増進のため国際機関などの活動に協力する	8																				●	●	
	知識・理解	人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景 について理解している	社会と医療	社会的な事業(健診、夜間休日診療所、予防接種など)に参画し、医療政策 に意見を述べることができ、海外の研究者・医療関係者と実践的なコミュニ ケーションをとることができる。外国人患者の英語での診察ができる	9												●						●	●			
	人間への深 い愛	関心・意欲・ 態度	豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識 を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕 する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校 への帰属意識を有している	職責の自覚(プロフェ ッショナルリズム)	豊かな人間性を有し、プロフェッショナルリズムを実践し、同僚後 輩の模範となる	10		●	●	●	●	●						●								●	
健康社会の推進				生命の尊厳について深い認識を有し、健康な社会づくりに寄与 する	11																					●	
帰属意識				それぞれの地域に根をおろし活動するとともに、兵庫医科大学 卒業を誇りに感じ、同窓会活動にも参加する	12					●																	
思考・判断		患者およびその家族の人権を守り、医師の義務 や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最 優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることが できる	生命倫理	生命倫理に沿った行動ができる	13	●	●	●	●	●															●		
			患者の権利と生命の尊 厳	生と死、生命の尊厳について省察できる。エンド・オブ・ライフケ ア、アドバンスド・ケア・プランニングを多職種とともに実践でき る	14	●	●	●	●	●																●	
技能・表現		人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい 眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーシ ョン能力を有している	多様性の理解	他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、 社会の様々な人々や団体と積極的に関わる	15	●	●	●	●	●	●		●										●				
			医療の均てん化	医療資源の乏しい地域の医療を実践する	16																				●	●	
			コミュニケーション能力	適切な患者およびその家族との医療コミュニケーションができ る。医療従事者、職場環境で適切なコミュニケーションができる	17	●	●	●	●	●	●	●	●											●			
知識・理解		患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々 なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立 場に立つことができる	ハンディキャップ	能力障害の解決を含めハンディを持った人々への支援ができ る	18	●	●	●				●												●	●		
			患者の痛み	難治性の痛みを含め、患者の痛み、苦しみ、悩みに対して全人 的に対応できる	19	●	●	●																	●	●	
人間への幅 の広い科学 的理解	関心・意欲・ 態度	医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂 行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態 度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない	科学的探究心	基礎・臨床を問わず、研究成果を学外に発信し、学会等で議論 できる	20											●					●	●					
			生涯学習	生涯にわたり医学の進歩に応じて最先端の知識と技術を能動的 に学修できる	21											●		●	●					●	●		
			教育能力	指導医、専攻医、レジデント、研修医、学生へとそれぞれ後輩 に指導・助言ができる	22		●		●	●	●											●	●				
	思考・判断	患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に 捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決 能力を有している	臨床推論	臨床疫学、医学統計学の素養を踏まえ診療計画を立てEBMを 実践できる	23									●	●												
			問題解決能力	国際学術論文を含めて適切な情報収集ができ、それをもとに患 者の診断と治療が適切に実践できる	24										●	●	●	●					●	●	●	●	
	技能・表現	基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得 しており、全身を総合的に診療するための実践的 能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有し ている	基本的な診察法	診察法について指導ができる	25		●			●	●			●			●					●	●	●	●		
			医療技術・検査	基本的な臨床手技の方法や種々の検査法を指導できる	28		●			●	●			●			●						●	●	●	●	
			救命救急	ACLSを実施し、指導できる。緊急性の高い疾患に応急措置を 行い必要な対応、移送ができる	29								●		●			●					●	●	●	●	
			予防医学と健康増進	健診の結果説明、疾病予防を的確に指導できる。患者の行動 変容を促す指導ができる	30	●	●								●			●						●	●		
			医療安全	医療安全、感染対策を理解し、遵守、実践、管理ができる	31														●	●	●					●	
	知識・理解	人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの 原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識な らびに様々な疾病に対する適切な治療法を身に つけている	人体の構造・機能	人体構造・機能を理解したうえで、最適な医療を実践できる	32													●	●	●				●		●	
			原因・病態	頻度の高い疾患の病因・病態の知識をもとに、適切な医療が 実践できる	33	●	●													●	●	●				●	●
診断・治療			頻度の高い疾患について、適切に診断・治療できる	34	●	●													●	●	●				●		

2021年度

厚生労働省の臨床研修到達目標

■ 行動目標 医療人として必要な基本姿勢・態度	
(1)患者－医師関係 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、	
A	1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
B	2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。
C	3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。
(2)チーム医療 医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、	
D	1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
E	2) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
F	3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
G	4) 患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。
H	5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。
(3)問題対応能力 患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために、	
I	1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM =Evidence Based Medicineの実践ができる。）。
J	2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
K	3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。
L	4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。
(4)安全管理 患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために、	
M	1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
N	2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。
O	3) 院内感染対策（Standard Precautionsを含む。）を理解し、実施できる。
(5)症例呈示 チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、	
P	1) 症例呈示と討論ができる。
Q	2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。
(6)医療の社会性 医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、	
R	1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
S	2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
T	3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
U	4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。